
何処にも行かないで

封弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何處にも行かないで

【Zコード】

Z0840D

【作者名】

封弥

【あらすじ】

気休めしたら?と言つ蘭の提案にOKをした新一。そこで、半年ぶりのトロピカルランドに。しかし、また新一に事件の解決を求める電話がかかってくる。其れを見て蘭はもう嫌だと新一の前を去り、家にまで来てしまう。家の自分の部屋で泣いているとき、前に両親の元へ帰るといった「ナンから電話がかかってきて、蘭は慰められて…

(前書き)

コナンが登場しますが、勿論新一がコナンの声で蘭に向かって喋つ
てるだけです^ ^
勘違いはなさらないよ!!にお願いします。

もつ…事件事件って…。

東の名探偵って言われるぐらいだから仕方がないかもしねないけれど…。

何処にも行つてほしくない。

ずっとこの場所にいて、と言いたい。

でも、事件があつたときは大抵携帯で、来てくれと呼び出しを食らう。

そんな姿を嫌と言つほど見てきた。

もつ…新一が居なくなるなんて…嫌だから。

「うーん!早くしろ!」

「う…うん…すぐ行くから!」

私と新一は、今日トロピカルランドへ行くこと。

気休めでもしたら?と言つ私の提案に新一がOKを出したから。

「トロピカルランド行くの久しぶりよね」

「あ…半年ぐらい行つてなかつたもんな」

つい最近、やつと新一が戻つてくれた。

でも…コナン君はもう居ない。

親の所へ帰ると言つて、私の前から忽然と姿を消した。

新一と凄く似てて…私をずっと守つてくれた、小学一年生のコナン君。

また…「蘭姉ちゃん」と呼ばれたい。

「…蘭？」

「えつ！？なつ…何！？」

「いや…なんか悩んでるのか、って思つてよ」

「つづん。」ナン君がいた頃を思い出して

「あんまり悩むとお前、どんどん落ち込んでこへや。今田せトロペ

カルランドでパー^ツと行^こうぜー」

「うんー」

そつ言つて、新一は私の手を握り、走つていぐ。

ずっと高くなつた背丈、広くなつた背中。

たまらなく愛しくて…。

トロペカルランドでは、吃驚するぐら^いいはしゃいでいた。

新一も仕方なし、といつた感じに付き合つてくれた。

「蘭。次、何処行く…あ

「また…？」

「ああ。警察からだな」

新一は電話を取り、受話器に向かつて喋^べりついた。
そのとき、私は何故か新一の携帯を握つた。

何処にも行かないで、と^いふかの心が行動に出たのだ。

「蘭？…放せよ」

「嫌！何処にも行かないでつ！！」

「…無理だな。解決したら戻つてくるから」

「何時も其ればっかり！…もう知らない！」

「蘭！…！」

私は新一を背に走り出す。
もつ…事件事件って言うのを聞くのが嫌になってきた。
いつもなら『頑張ってね』と笑顔で送り出せたはず。
なのに…なのに。

自分の家まで来てしまった。

今頃…事件を解いて居るんだろうな、新一。

自分の部屋に入つて、そのまま泣き崩れる。

「どうして…『頑張ってね』って…送り…出せなかつたの?..」

そのとおり、自分の携帯が鳴り出す。

「え…?」コナン君!?

少々吃驚しつつ、もじもじと応答する。

『蘭姉ちゃん、久しぶり!元氣して?』

「うん…元氣…だよ!」

『蘭姉ちゃん…泣いてる?』

「え? ううん…泣いてないよ」

『新一兄ちゃん。また事件?』

「う…うん…そうだよ」

『新一兄ちゃんは必ず、帰つてくるよ。蘭姉ちゃんの』と、一番好きだつて大分前、言つてたから。絶対に帰つてくるから!』

『コナン君…そうだよね。帰つてくるよね』

『うん! だから頑張ってね! 僕も、アメリカで頑張つてるから! 蘭姉ちゃんのこと…見守つてるからね!』

「有難う、コナン君…じゃね」

『つんバイバイ!』

そう言って、電話は切られる。

なんか、慰められちゃった。

そうだよね…新一は、帰つてくるよね。
なんで、あんなに切れたんだろう。

新一が帰つてくるって事は知つてたのに…。

そのとき、下でインターホンが鳴る。

まさか…

階段を駆け下りて、扉を開ける。

「し…新一」

「やつぱり…此処だつたか。御免な…警部に頼んで、事件バスさせて貰つた」

「そんな!行つてきたら良かつたのに…だいたい、私だつてあんなにキレて…新一困らせて」

「いいや…良いんだ。コナンから聞いたんだ。『蘭姉ちゃん、泣いてるよ』って」

「コナン…君から?」

「ああ…でも、本当に御免。俺…どうしようかって、迷つてたけど、お前が止めてくれたから…今、『』お前の田の前にいる「何処にも…行かない?」

「ああ…絶対に行かないさ。あ、そうだ。こつすればどうだ?もしも事件があつたとき、蘭を連れて行く。それなら一緒にだろ?」

「…良いけど、危険な目に遭わせないでよね」

「大丈夫だ。俺が守つてやるから」

「…頼んだわよ。東の名探偵さん?」

「わーつたよ

何処にも行かないで、と言うのは絶対に無理なことだけど、傍にいてくれたらそれで良いよ?新一。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0840d/>

何処にも行かないで

2010年12月1日07時06分発行